

企画展 ふくいの修学旅行

—よみがえる瞬間（とき）—

教育博物館

浦雅子

福井県では、修学旅行の移動手段の一つとしてこれまで多くの学校が新幹線を利用してきた。2024(令和6)年3月、北陸新幹線が敦賀まで延伸する。これを契機に、明治中期から実施された福井県の修学旅行の行き先、目的、交通手段の変遷を紹介する企画展を開催した。

本稿では、企画展の展示内容や展示資料の紹介、企画展を通しての省察をまとめる。

〈キーワード〉 長途遠足 参宮旅行 集約列車 新幹線 班別行動 学びの要素

I はじめに

児童生徒たちが楽しみにしている一番の学校行事と言えば、修学旅行である。修学旅行は時代や交通手段の進化とともに、その目的や内容、行き先が変化してきた。

2024(令和6)年春、北陸新幹線が敦賀まで延伸開業する。これまで福井県から関東方面への修学旅行には、1964(昭和39)年に開業した東海道新幹線が多く利用されてきた。北陸新幹線の延伸開業によって、これからの修学旅行での、さらなる新幹線の活用が期待される。

今回の企画展では、これまで福井県ではどのような修学旅行が行われてきたのかを振り返った。明治時代から現在までの、福井県の児童・生徒たちが体験した修学旅行の変遷の様子を紹介し、自分たちの修学旅行を懐かしむとともに、違う世代の修学旅行についても知る機会としたいと考えた。

II 企画展の概要

1 **テーマ** ふくいの修学旅行～よみがえる瞬間(とき)～

2 **期間** 令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

3 **展示内容および展示資料**

展示内容は、明治時代の修学旅行の始まりから現代までの歴史を年表とともにたどっていった。展示資料は、各学校や個人から提供された写真を中心に、各テーマに沿って紹介した。写真とともに、当時の修学旅行のしおりや日記、土産物などの資料を展示し、懐かしさや親しみを感じられるよう心がけた。

(1) 修学旅行のはじまり

① 長途遠足

修学旅行は、1886(明治19)年東京師範学校(現・筑波大学の前身の一つ)の、「長途遠足」が始まりだと言われている。生徒は軍装で銃器を持参し、12日間徒歩で千葉県銚子港方面へ行き、野外の軍事教練と学術研究を行った。後の1888(明治21)年「尋常師範学校設備準則」で、修学旅行の名称が法制化されたが、現在の修学旅行とは異なり、学術研究と軍事演習の二つが目的とされ、文部省も師範教育に高い意義があると評価していた。

福井県では、1888(明治21)年に、福井師範学校(現・福井大学教育学部)が三国方面へ二泊三日、福井尋常中学校(現・藤島高校)が敦賀へ六泊七日で出かけたのが始まりであった。

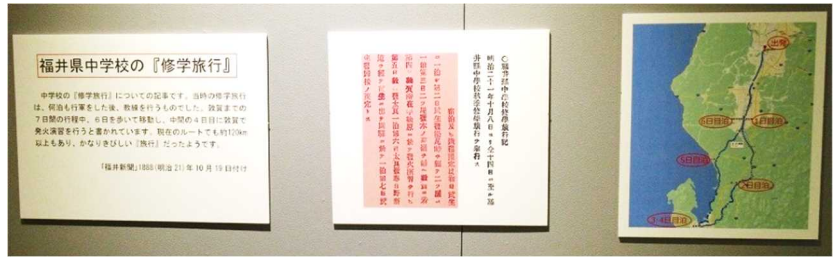


図1 福井県中学校の修学旅行 1888(明治21)年

② 平瀬作五郎と修学旅行

イチョウの精子を発見し、恩賜賞を授与された福井県出身の植物学者、平瀬作五郎は修学旅行を始めた一人だと言われている。

平瀬が岐阜中学(現・岐阜高校)に勤務していた1885(明治18)年ころ、平瀬は、海を見たことがない生徒に海を見せるため敦賀まで生徒を引率して汽船に乗せ、デッキを実際に見せて理解させた。あわせて歴史部の生徒に敦賀の神社を、地理部の生徒に地形や産業などを調べさせ、研究の記録を学校に残した。後年、文部大臣森有礼が同校を訪問した際、記録を見て高く評価した。



図2 平瀬作五郎(1856-1925)



図3 明治～大正期の敦賀港 デジタルアーカイブ福井より

③ 県外への修学旅行

福井県の県外への修学旅行は、1889(明治22)年9月に福井師範学校が京都に出かけたのが始まりであった。北陸線が福井まで開通する前のため、生徒たちは軍装で敦賀まで歩き、敦賀から汽車に乗る行軍的なものであった。

翌1890(明治23)年は、東京で内国勸業博覧会が開催されたため、4月に福井中学校が初めて東京への14日間の修学旅行を行い、6月には福井師範学校が同様に東京へ出かけた。東京見物のさなか、旧福井藩主松平春嶽が死去し、6月8日はその葬儀に参列したという記録がある。

(2) 大正から戦前の修学旅行

① 女子師範学校の修学旅行

当時、多くの女子教育機関では、女子が修学旅行を行うことによる教育効果を認められず、修学旅行の導入には消極的な学校も少なくなかった。

その中、福井県では1917(大正6)年、福井県師範学校本科女子部が修学旅行を実施した。北陸線の福井駅から米原駅経由で汽車を利用し、名古屋、伊勢、奈良、大阪、神戸、須磨、京都、大津と6日間かけて寺社や観光地を見学し、奈良では奈良女子高等師範学校を視察した。また、名古屋城の金の鯨や、京

福井県で初めての修学旅行
福井尋常中学校 東京修学旅行の行程表
1890(明治23)年4月7日～20日

日付	場所	時刻	手段
4月7日	福井中学校	発 6:40	徒歩
	今庄	発 18:00	
4月8日	金ヶ崎(敦賀)	発 5:30	徒歩
		発 11:00	
	米原	発 13:10	鉄道
		発 14:30	
4月9日	大塚	発 15:22	鉄道
		発 16:22	
	桑名	発 19:45	船
4月10日	四日市	発 4:00	船
	横浜	発 7:30	
4月11日	新橋(東京)	発 11:20	徒歩
		発 19:20	
	上野	発 15:30	船
4月12日	新橋(東京)	発 18:35	鉄道
		発 19:25	
4月13日	上野	発 21:30	鉄道馬車
4月14日	自由行動		
4月15日	第3回内国博覧会		
4月16日	参観		
4月17日	福井尋常中学校		
4月18日	森田洗染に面会		
4月19日	帝國大学工科大学		
4月20日	高等商業学校(現一橋大学)		
4月21日	松平重永(春嶽)に面会		
4月22日	自由行動		
4月23日	宿舎	発 4:00	徒歩
		発 6:10	
4月24日	新橋	発 18:10	鉄道
		発 5:00	
4月25日	名古屋	発 7:45	鉄道
		発 8:20	
4月26日	金ヶ崎(敦賀)	発 10:30	鉄道
		発 17:50	
4月27日	大良(雨越前町)	発 16:00	徒歩
		発 17:50	
4月28日	福井中学校	発 18:40	徒歩

福井～敦賀に鉄道が通るのは1890年のことです。生徒たちは敦賀まで1日歩きました。

東京帝国大学総長であった渡辺洪業(福井出身)は、「従来の福井を代表する人として、皆で力を発揮するためなら、海外でも海外でもとびだせ。私も郷土の人々も常に応援する」という熱いエールを送りました。

この春月までに行く部外は準備をしておいて東京の音楽を聴く、中学生たちを誘導しました。

1日徒歩1年は朝晩の平均で1時間40分です。

あいつは次期にたたられましたが、生徒たちははるばる歩きました。

『福井25年福井中学校の東京修学旅行(1890)』(福井県立福井県立図書館蔵書149-13号)より作成

図4 福井尋常中学校 東京修学旅行行程 1890(明治23)年

都の動物園で白孔雀が羽を広げる様子を見て、感嘆の声を上げたことが日記に記されている。教練を主とする男子の修学旅行とは違い、観光や視察を目的とする現在の修学旅行に近い形式であったと言える。

② 小学校、海外へ広がる

大正期には、小学校での修学旅行が実施されるようになった。

福井市小学校百年史によると、1917(大正6)年、東安居尋常小学校では3年生以上が金沢方面へ、木田尋常小学校では5年生以上が敦賀方面へ修学旅行を実施した。福井師範学校附属小学校では、1925(大正14)年に初めて伊勢参宮、桃山御陵参拝を兼ねて6年生が京都、奈良、名古屋方面へ旅行した。

また、1918(大正7)年には、福井県立敦賀商業学校(現・敦賀高校)がロシアのウラジオストックへ10日間の修学旅行を実施した。現地の商業学校を視察したり、班ごとに経済について調査を行ったりして、充実した修学旅行であったことが、日誌に記されている。

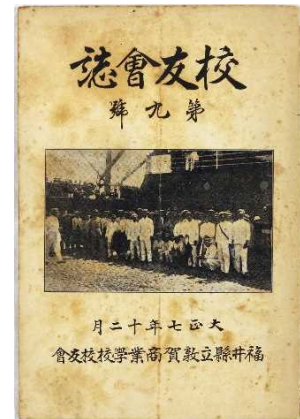


図5 敦賀商業学校校友会誌第九号
1918(大正7)年 敦賀市立博物館蔵

③ 参宮旅行

昭和に入ると、学校行事が天皇・皇室祭祀、奉安殿、勅語を中心に実施されていくことになり、修学旅行においても伊勢神宮・橿原神宮・桃山御陵参拝が定番となった。

福井県の多くの小・中学校でも参宮旅行が主流となり、小学校は3、4日間、中学校は1週間から10日間の日程で旅行した。しかし、世界恐慌の不況によって、1932(昭和7)年には県外旅行に大きな制限がかかり、福井師範学校には宮城参観、小・中学校には伊勢神宮、桃山御陵の参拝など、一泊の県外旅行の外は許可されなかった。不況期後は緩和されたが、太平洋戦争下で再度、日数や「見学」から「教練」の目的へと制限がかかった。

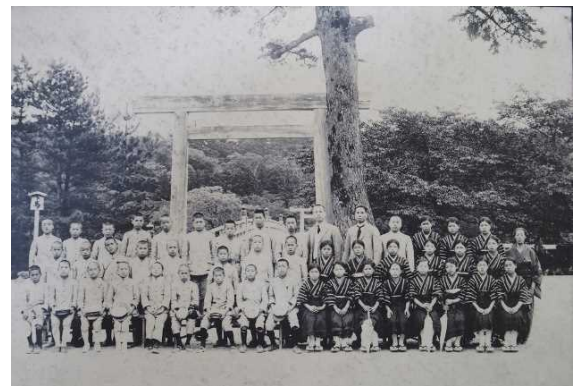


図6 参宮旅行【岡本尋常高等小学校】
1930(昭和5)年

(3) 戦後、修学旅行の再開と交通機関の発達

① 修学旅行の再開

戦後、新制中学校、新制高等学校の発足に伴い、徐々に修学旅行が再開されるようになった。

1947(昭和22)年には、池田第一中学校が徒歩で移動し、永平寺で一泊した。1948(昭和23)年春には、金津・春江・進明・武生第二・王子保・栗野・佐分利・大島、秋には上志比・鯖江・愛発(現・気比中)・知三(現・名田庄中)の各中学校が関西方面に一～二泊の日程で実施した。しかし、1948(昭和23)年福井地震により、震災被害地の学校は修学旅行を実施できる状況ではなかった。1951(昭和26)年に鯖江・武生第二は関東方面への旅行を実施し、1952(昭和27)年になると、県下全中学校の96%が実施した。



昭和24年 明道中学校 修学旅行日程
4月29日(金) 午前1時16分 福井駅発 午前7時30分 京都駅着 奈良見学(東大寺、若草山、春日神社、興福寺など)
30日(土) 京都見学(三十三間堂、方広寺、清水寺、八坂神社、 知恩院、インクライン動物園、平安神宮、御所など)
5月1日(日) 午前10時20分 京都駅着 午後4時45分 福井駅着 (明道中学校30周年記念誌より)

図7 清水寺集合写真と日程【明道中学校】1949(昭和24)年

高校では、1950(昭和25)年に武生高校が京都・奈良・大阪1泊2日の修学旅行を実施した。乾徳高校(現・福井商業高校)では、1951(昭和26)年に六泊八日で3班に分かれて東京・日光方面で実施した。

小学校では、1950年代前半(昭和20年代後半)から京都・奈良・大阪方面への修学旅行が実施された。

また、福井から関西まで遊覧バスを使つての移動が可能になり、生徒が徒歩で移動する負担が減った。



図8 二条城前【国富小学校
(現・小浜美郷小学校)】 1956(昭和31)年

② 米を持参

戦後の修学旅行の際、宿泊する旅館に自分が食べる分量の米を持参していた。当初は食糧難もあり、旅館が大人数の米を用意することが難しかったため、また、宿泊費用を引いてもらうためだとも言われている。

小学校では、一人一泊二合ずつの米を布袋に分けて持参し、さらに1日目の昼食用として握り飯を持参するという場合が多かった。中学校では、一人一升五合持参する学校もあり、持参する米の量が現在の平均的な米の消費量よりかなり多く、当時は米を中心とした食生活であったことがうかがえる。このような米持参の修学旅行は昭和40年代まで続いた。

(2) 所持品

- ① 米 4合
- ② 男女とも おまきのかわりに体操ズボンを持っていく。
- ③ べんとう(にぎりめし)を1食分持っていく。
- ④ 雨具として傘を持っていく(学校毎にまとめバスに積みこむ)
- ⑤ 旅行かばんなどは、ぜいたくでないものを持っていく。
- ⑥ 洗面用タオル チリ紙 旅行のしおり 筆記用具(えんぴつ) 脱脂綿(女子) 水筒を用意する。
- ⑦ バスによろ子は、よい止め薬 ポリエチレンの袋を用意する(ポケットに2~3)
- ⑧ 持病のある子は、いつものみつけ薬を持っていくこと。

図9 修学旅行のしおりより

【坂井町連合小学校旅行団】 1968(昭和43)年

③ 集約列車の運行

修学旅行が本格的に再開するようになると、当時の国鉄は車両不足が深刻な状況にあったため、旧形客車をかき集めた団体列車などを仕立てていた。しかし、ドアの開閉が手動式の旧形客車では、生徒がデッキから転落する事故などもあり、自動ドア方式の電車による運転が望まれるようになった。そこで、1959(昭和34)年に日本初の修学旅行専用列車(集約列車)が運転を開始した。

福井県では、小学校が関西方面へ、中学校が関東方面への旅行が主流となった。また、北陸三県の中学校長会が国鉄と交渉し、乗り換えなしに東京へ行ける集約列車が運行されるようになった。集約列車は一般客と混じることがないため、生徒も教員も安心して安全な移動ができるようになった。

集約列車が運行を開始してからまもなく65年になるが、現在も多くの修学旅行生の欠かせない移動手段となっている。



図10 丸岡中学校 1971(昭和46)年



図11 春江中学校 1992(平成4)年

④ 新幹線の利用と乗車練習

1964(昭和39)年、東海道新幹線が東京～大阪間で開業すると、移動時間が大幅に短縮された。1970(昭和45)年に新幹線の修学旅行専用列車も設定され、より多くの学校が利用するようになった。

福井県でも、関東方面へ行く中学校を中心に新幹線の利用が広がり、1965(昭和40)年に福井大学附属中学校が、1970(昭和45)年に明道中学校が新幹線を利用した記録がある。移動時間の短縮により、鎌倉、熱海、箱根、富士山などが新たな行き先の定番となった。1975(昭和50)年には、山陽新幹線が博多まで開通し、新幹線を利用した中国・九州方面への修学旅行が、高校を中心に実施されるようになった。

また、東海道新幹線を利用して福井県から関東方面へ旅行する際、米原駅で在来線からの乗り換えが必要で、乗り換え時間は約10分程度であった。その場合、一学年100～300人の生徒が短い時間にホームに降り、新幹線に乗り換える必要がある。そこで、遅延なく乗り換えるため、各学校では修学旅行に行く前に、体育館で事前の乗車練習を行っていた。練習の甲斐もあり、修学旅行の本番で、無事に乗り換えができたようだ。一方で、列車が逆方向に入線し、練習の成果が発揮できないなどのアクシデントもあったようだ。

⑤ 飛行機の利用

1978(昭和53)年、公立高校の修学旅行で航空機が認められるようになったことで、新幹線よりさらに短時間で長距離移動が可能となり修学旅行も変化した。

福井県の高校では、それまで新大阪から山陽新幹線を利用して、中国地方・北九州への修学旅行が主流であったが、平成に入るころより飛行機を利用して沖縄や北海道への修学旅行が実施されるようになった。移動時間の短縮により、旅行日数も四泊五日から三泊四日になる学校が増加した。

また中学校では、小松空港に近い坂井市、あわら市の学校で、東京まで往復または片道の飛行機の利用が進んだ。さらに2003(平成15)年から越廼中学校が、海外派遣事業と兼ねてシドニーへの修学旅行を実施するなど、中学校、高校でオーストラリア、台湾、韓国、シンガポールなど海外への修学旅行が行われるようになった。

(4) 旅行先の変遷

修学旅行の交通手段は、徒歩から汽車、バス、新幹線、飛行機と変化してきた。目的もまた、軍事教練から参宮、観光、体験、研修へと変化している。交通手段や目的の変化、また近代化とともに行き先の定番の変遷が見られる。

① 小学校

福井県の小学校では、戦後の再開時から京都・奈良・大阪という行き先はほとんど変わらない。しかし、時代により行き先のテーマパークは奈良ドリームランド→エキスポランド→USJ(ユニバーサルスタジオジャパン)と変化している。内容では、団体行動から班別行動、見学中心から体験学習を取り入れるなどの変遷が見られる。中には、広島や三重方面に旅行した学校もある。



図12 福井大学附属中学校 1965(昭和40)年



図13 至民中学校 1983(昭和58)年



図14 北海道への機内
【北陸高校】2008(平成20)年



図15 奈良公園
【平章小学校】1970(昭和45)年



図16 エキスポランド
【春江小学校】1998(平成10)年



図17 グループで清水寺へ
【日新小学校】2013(平成25)年

② 中学校

中学校では、戦後再開時の関西方面から東京を中心とした関東方面が行き先の定番となっている。東海道新幹線開通から平成初期ころは日光や箱根、富士山を行き先とする学校が多かったが、徐々に班別行動や体験、テーマを設定した研修など東京での活動内容を充実させる方向性へと変化している



図18 富士山の前で
【丸岡中学校】1971(昭和46)年



図19 東京ディズニーランド
【坂井中学校】1984(昭和59)年



図20 雷おこし作り体験
【芦原中学校】2023(令和5)年

③ 高等学校

県内の高校は、特に交通機関の発達による影響を受け、戦後再開時の夜行列車を利用した関東、九州から山陽新幹線を利用した中国・北九州、飛行機を利用した北海道、沖縄、海外と行き先が変化している。また学校独自の方針や特色により、様々な目的の修学旅行が実施されてきた。



図21 長崎 平和公園
【藤島高校】1981(昭和56)年



図22 首里城
【春江工業高校】2009(平成21)年

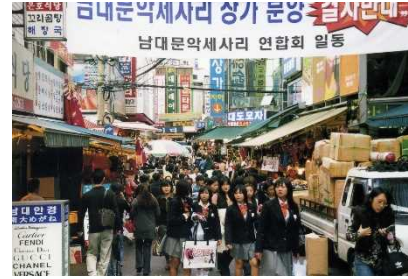


図23 韓国 南大門市場
【武生東高校】2005(平成17)年

(5) 平成から現代の修学旅行

① コロナ禍での修学旅行

2020(令和2)年、新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令され、修学旅行も大きな影

響を受けた。感染状況を見ながら時期を延期したり、日程を短縮したり、行き先を県内や近隣県に変更したりした。

小中高とも、嶺北の学校は嶺南へ、嶺南の学校は嶺北へバス移動の修学旅行が主流であった。県内では、ツリーピクニック池田、芝政、東尋坊、一乗谷、レインボーラインなどの観光地や体験が人気を集めた。また、魚さばき、紙すき、そば打ち、スキーなど福井ならではの体験をし、福井の良さを再発見できたと前向きに捉える児童・生徒も多かったようである。一方、感染の拡大から延期の末、中止という苦渋の判断を行った学校もあった。



図24 三方五胡
【鶉小学校】2020(令和2)年

② 北陸新幹線の開業

2015(平成27)年、北陸新幹線が金沢～長野間で開業し、金沢駅まで行けば、乗り換えなしで東京まで移動できるようになった。坂井、春江、芦原、金津中学校では、いち早く北陸新幹線を利用し、関東方面への修学旅行を実施した記録がある。

2024(令和6)年3月16日に北陸新幹線が福井、敦賀まで延伸するため、来年度以降の福井県で利用できる修学旅行専用新幹線(集約列車)は北陸新幹線のみになる。来年は23校約2600人の中学生が、北陸新幹線を利用して、関東方面へ行く予定である。乗り換えなしで東京まで行くことができる北陸新幹線を利用した修学旅行が、今後の福井の新たな定番になると思われる。さらに、途中経由地の石川、富山、新潟、長野、埼玉が行き先の一つとなる可能性もあり、行き先が広がりそうである。



図25 はくたかの前で
【金津中学校】2016(平成28)年

③ 現在・これからの修学旅行

2022(令和4)年になると、福井県の修学旅行は再び目的地を県外とするようになった。平成半ばころより、修学旅行に学びの要素が取り入れられたが、コロナ禍を経て、修学旅行の教育的意義が見直されるようになり、学びの要素がさらに強くなった。観光が主だった修学旅行の目的は、体験や地域の魅力の発信、企業研修などキャリア教育、探究学習の場へと変化している。

また、高校では学年が一緒に旅行するのではなく、「研修旅行」として学科やコースごとに目的に沿った行き先を設定する学校が増えている。目的に応じて行き先も海外を含め多様化し、生徒が選択する学校もある。



図26 いもがゆもちパイの
販売(京都)【栗野南小学校】
2019(令和元)年



図27 あわら市をPR(東京)
【芦原中学校】2023(令和5)年



図28 ドンズー日本語学校で
ディスカッション(ベトナム)
【高志高校】2019(令和元)年

(6) その他の展示

① お土産

来館者に懐かしんでもらうため、修学旅行の各地のお土産を約60点展示した。ペナントや提灯、絵葉書など昭和を感じるものから、テーマパークのグッズなど定番の物を収集し、紹介した。



図29 各地のお土産



図30 映像コーナー

② 映像コーナー

修学旅行の写真資料はあるが、なかなか映像資料は残されていない中、今回資料調査の中で個人所蔵の映像を借用することができた。1966(昭和41)年三国高校の九州修学旅行、1983(昭和58)年春江中学校の関東修学旅行の記録、2019(令和元)年金津中学校が新宿で放映したあわら市PR動画の3本を来館者が選択し、視聴できるように配置した。これらの動画は、当時の交通手段や行き先、楽しげな学生や教員の様子がうかがえる貴重な展示となった。

③ 思い出エピソード

前の特別展会期中に、今回の企画展に向けてホームページと来館者を対象に修学旅行の思い出エピソードを募った。集まったエピソードからは、高速道路や新幹線に感動したことや米原乗車練習、班別行動、コロナ禍の旅行など各年代の生の声を聞くことができ、展示をさらに印象付けるものとなった。

当時のお住まい 当時の年代 行き先	70代 女性 福井市 中学校 関西
思い出	バス10台つらなって初めて高速道路内のオレンジ色の灯を見て感動しました。姫路城や宝塚歌劇なども見て楽しかったです。

当時のお住まい 当時の年代 行き先	70代 女性 あわら市 中学校 東京
思い出	生まれて初めて首都東京に行き、その大きさ、繁栄ぶり、物が豊かなことなどに驚き、東京の偉大さを満喫しました。

図31 思い出エピソード

④ 集合写真

資料調査をしている中で、多くの集合写真が収集できた。集合写真は、各テーマに沿った展示には使用できないことが多かったが、行き先や生徒たちの服装など当時の背景をうかがうことができる興味深い資料である。そこで、昭和初期から今年度までの写真24点を年代ごとに整理し展示した。多くの生徒や教員が写真に納まっているため、自分自身や友人、恩師を探す楽しみが生まれたようであった。



図32 集合写真

⑤ アンケート

今回、来館者が参加できる展示として行き先アンケートを実施した。小・中・高の3種のパネルに、年代ごとに色の違うシールで行き先を貼っていく形態とした。来館するごとにシールが増えていく様子や、年代ごとに行き先に変化がある様子等が視覚的に分かり、来館者の興味を引く展示物となった。企画展を見学したほとんどの来館者がこのシールを貼って眺めた、好評なコーナーとなった。



図33 行き先アンケート

4 関連イベント・講座

本企画展に関連したイベント・講座として、下記のものを開催した。

(1) アートワークショップ「ルームキー風キーホルダー作り」

10月15日(日)、11月4日(土)に、1日各2回、計4回小学生を対象にキーホルダー作りの講座を実施した。今回は修学旅行にちなんで、昔ながらのホテルのルームキーに見立てたキーホルダーをプラ板とレジンで作成することにした。

参加者は、4回で計20名であった。参加者はプラ板に自分の名前や好きな絵をマジックで書き、思い思いのキーホルダーを作って楽しんでいた。4年生以下は保護者同伴としたため、親子で仲良く作成している姿も見られた。



(2) ミニ新幹線に乗ろう

11月19日(日)に、県立坂井高校の協力で生徒製作のミニ新幹線乗車体験を実施した。天候が悪かったため本所の体育館を会場として、体育館内に坂井高校自動車コースの生徒と教員が線路とミニ北陸新幹線、えちぜん鉄道の2車両を準備した。また、自作の自動改札機と生活デザインコース生徒製作の記念切符、車掌の制服も準備してもらった。

当館では初めての試みであり、来館者を予測することが難しかったが、当日は開館時刻から続々と親子連れが来館し、計200名を超える参加者が乗車体験を楽しんだ。幼児、小学生向けに館内展示物に関するクイズラリーを実施し、乗車体験後も企画展を親子で見てもらえるように仕向けた。親子でクイズを解きながら企画展を見る親子や小学生の姿や、多目的室でパズルや学校の写真検索をして楽しむ姿など、一日中來館者で賑わっていた。



図35 ミニ新幹線乗車体験

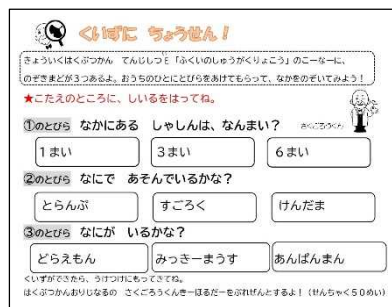
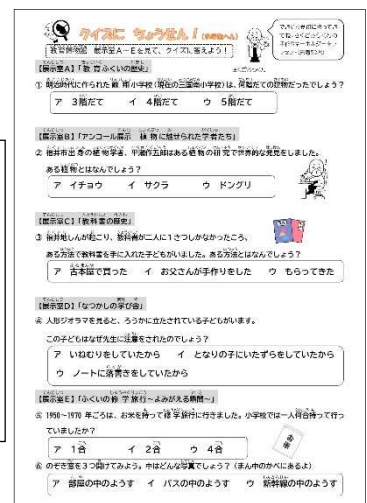


図36 クイズラリー用紙



(3) 蜂谷あす美氏特別講演会「ひかりかがやく北陸新幹線とこれからの修学旅行」

11月25日(土)に、福井市出身の旅の文筆家、蜂谷あす美氏による特別講演会を開催した。参加者は50名であった。鉄道と修学旅行の歴史や、新幹線・北陸新幹線について福井開業後のダイヤ予想や旅の提案などを、旅のプロならではの視点で楽しくわかりやすく講演してもらった。北陸新幹線を使っでの修学旅行やこれからの旅行に期待が高まる講演内容であった。

(2) および(3)のイベントの期間、県新幹線開業課から北陸新幹線PRツールを借用し、トリックアート3Dフォトコーナーを博物館玄関に設置した。多くの来館者が記念撮影をして、北陸新幹線開業への機運の高まりとともに今回のイベント・講座と企画展との一体感が増した。



図37 蜂谷あす美氏 講演



図38 フォトコーナー

Ⅲ 省察・現状分析

今回の企画展開催期間中の来館者数は、2,250名であった。来館者の年齢構成は、成人が72.4%、高齢者が11.3%と大人が80%以上を占める。中でも成人の割合が例年より多く、修学旅行というテーマに成人の各世代が興味をもってくれたと推測する。実際、会期後半では知人から「自分たちが写っている」と、話を聞きつけて来館したという人も多く見られた。会期中、学校の校外学習はなかったため、小学生、中高生は全て家族連れである。今回、中高生と保護者という親子連れが前回の特別展と比べて多く、親子で修学旅行について話しながら見学している光景がよく見られた。

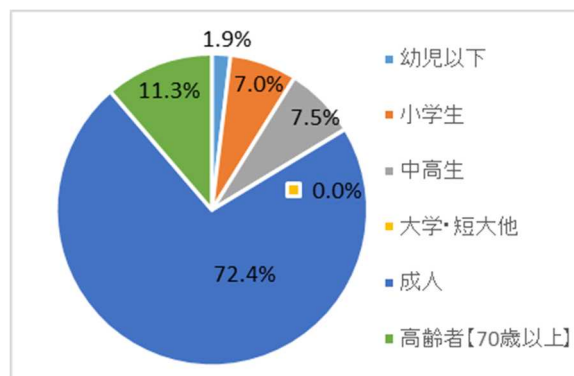


図39 来館者の年代構成

企画展に対する評価は4.56であった。満足度は、「満足」が71%、「やや満足」が26%で、計97%の高い割合で満足度が高かったことがうかがえる。本企画展は「修学旅行」というどの世代にも通じるテーマである。そのため、開催するにあたり古い資料だけでなく、平成、令和の資料も収集し展示するなど幅広い年齢層で興味もてる展示内容にすることを特に意識した。このことが、高い満足度に繋がったものと考えられる。

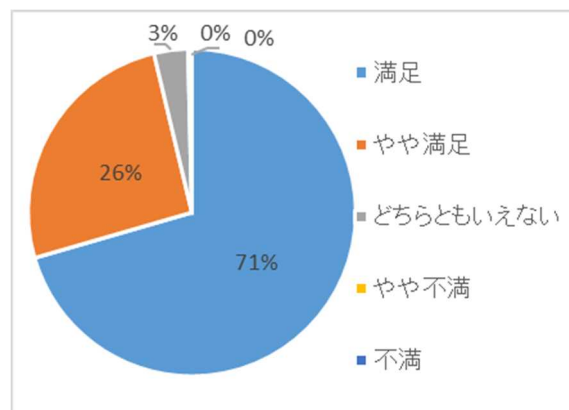


図40 満足度

また、アンケートでは、以下のような感想が書かれていた。

- ・戦前戦後の修学旅行について初めて知ることができ、おもしろかったです。(30代 女性)
- ・修学旅行がなつかしかったです。変わっていく姿がわかり、今は昔と違い便利で、ただついていくだけでなく、研修も兼ねていたことがわかります。(70代 女性)
- ・今日に至る時代の変遷とともに、変わってきた旅行スタイルが一目瞭然で懐かしく見学できました。米持参の話は聞いていましたが、納得しました。(60代 男性)
- ・自分の行った当時と昔、現在を比較できて良かったです。(50代 男性)
- ・いろいろな修学旅行の様子がわかりました。たくさんの写真から、楽しい思い出の様子が伝わってきます。(60代 女性)
- ・三国高校九州修学旅行映像が、自分が行ったのと同じルートで懐かしかったです。(70代 男性)
- ・年配の女性の方が、企画展を見てご家族と楽しく昔話をされているのを横で聞き、私も感動しました。すばらしい企画展をありがとうございました。(50代 男性)
- ・とてもおもしろかったです。もっと規模を大きくして開催してほしい。(40代 男性)
- ・修学旅行関係の当時の旅行ガイド、パンフレット、先生手作りのしおりなどは、常設としても価値があると思いました。(50代 男性)

アンケートの記述からは、好意的な意見が多かった。今回の企画展では、来館者に「懐かしんでもらうこと」「違う世代(時代)の修学旅行を知ってもらおうこと」をねらいとし、写真や実物の資料を多く収集し展示したことで、来館者にとっても印象に残るものになったと考える。

また、収集した価値のある資料を整理、保管し、今後出張展示や講座、常設展に活用できるように活用していきたい。ただ、資料全体のバランスとして、嶺南の資料が少なかったことが反省点である。嶺南からの

来館者は少ないため特に不満は聞かれなかったが、県域全体、県外からの来館者も含めて満足度が高まるように今後はより計画的に資料調査、収集をしたい。

IV おわりに

北陸新幹線の敦賀延伸を記念して開催した企画展であったが、修学旅行をテーマにした企画展は珍しく、テレビやラジオでも取り上げられ、幅広い年齢層の方に見てもらえた。今回の資料調査では、県内各学校に多くの協力をいただき、学校行事も今後企画展のテーマとして扱える分野であることを改めて実感した。教育に特化した博物館である当館ならではの企画を、来館者のニーズと合わせて今後も調査・研究し、計画していきたい。

参考文献

- (1) 公益財団法人日本修学旅行協会(2021)『教育旅行年報 データブック 2021』
- (2) 公益財団法人全国修学旅行研究協会『修学旅行の発祥と意義』
- (3) 福井県師範学校本科女子部(1917)『大正六年福井県師範学校本科女子部第4学年生修学旅行日誌』
- (4) 福井新聞(1890)『福井県尋常中学校修学旅行日記』第186～190号記事
- (5) 福井市教育委員会(1974)『福井市小学校百年史』
- (6) 福井県教育委員会(1974)『子どもの目でみた百年』
- (7) 福井県中学校長会(1957)『福井県中学校十年史』
- (8) 福井市教育委員会(1997)『福井市中学校教育五十年史』